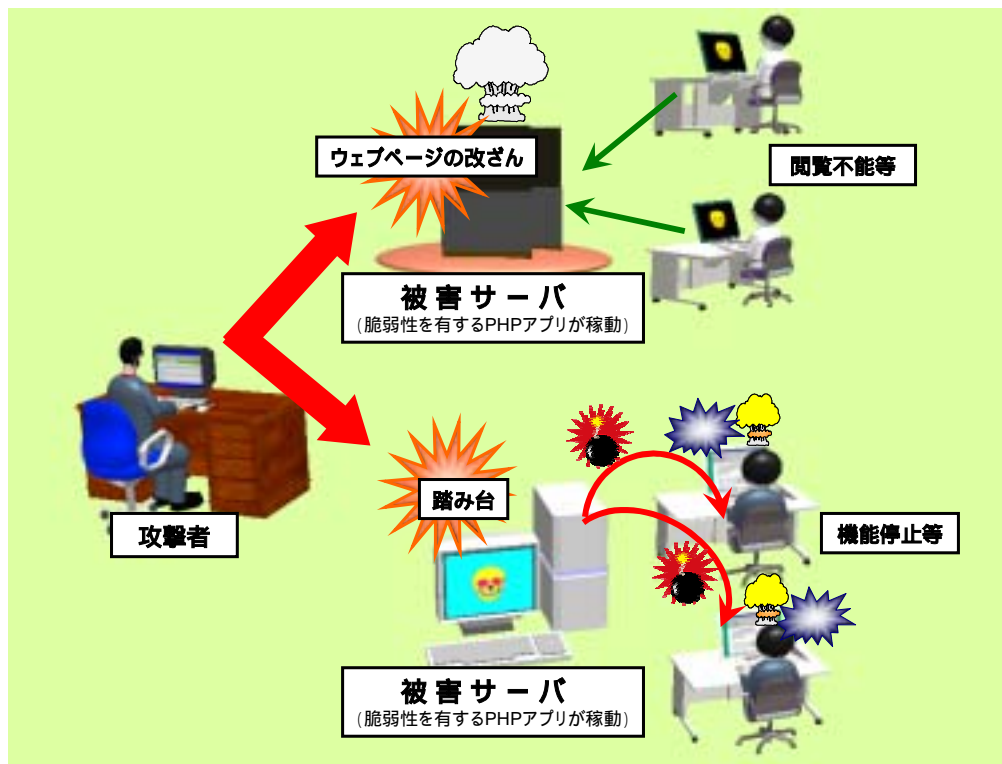


平成 18 年 9 月 6 日
警 察 庁

PHP を使用したウェブアプリケーションを標的とした攻撃について

インターネット上で無差別に行われているウェブサイトに対するアクセスの中に、プログラム言語 PHP (Hypertext Preprocessor) により作成されたウェブアプリケーションを標的とした攻撃が含まれ、脆弱性を有するアプリケーションを利用している場合、以下の結果等をもたらす可能性があることを認知しました。

- ・ ウェブページを改ざんされる。
- ・ 不正プログラムを蔵置され、他のコンピュータへの攻撃の踏み台に利用される。



これらの攻撃は、インターネットに接続されているコンピュータに対してツール等を用いて無差別に行われていると考えられます。

PHP を使用したウェブアプリケーションを使用されている場合は、当該アプリケーションの作成者に既知の脆弱性の有無について確認を行うなど、使用されているコンピュータのセキュリティの再確認をお勧めします。